

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2170400465		
法人名	有限会社 夢家族		
事業所名	グループホーム夢家族・正木		
所在地	岐阜県羽島市正木町新井4丁目945番地		
自己評価作成日	H21.11.24	評価結果市町村受理日	平成22年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaihosip/infomationPublic.do?JCD=2170400465&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaihosip/infomationPublic.do?JCD=2170400465&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒5016232 岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1 はしま福祉サポートセンター内		
訪問調査日	平成21年12月15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ホームの周りには田畑が多く、散歩するのにとても良くゆっくり風景を見て自然を楽しむ事ができます。  
庭も広く、四季の花を植えて見学したり、ホームの畑では野菜作りをし、収穫も楽しくできます。又、収穫した野菜を近所に差し上げて交流をしています。  
近くのペットショップへも散歩の際に、見学させていただき、犬の愛らしさに心が癒されています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

グループホーム夢家族正木は、羽島市の市街地より東に寄った農家が点在する田園風景の中にある。自然に囲まれた静かな環境で、利用者が野菜や花作りをするなどゆったりと生活している。このホームでは、代表者、管理者、ケアマネージャーそして職員が互いに尊敬し合い、運営方針及び行事等も全員で話し合っている。職員のチームワークのよさが利用者や家族に伝わり、利用者全員が穏やかな表情で生活を楽しんでいる。地域住民との交流にも積極的に取り組んでおり、近所の農家から採れたての野菜が届けられたり、また散歩のときも道で出会う人や畑で作業している人から声を掛けられることも多くなってきている。管理者の熱い思いが他の職員にも伝わり、ケアマネージャー的確なアドバイスも加わって、認知症ケアに前向きに取り組んでいるホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	広間の職員に一番見やすい所に理念を掲げています。 ミーティングの時には、全員で読み共有し、実践につないでいる。	“安全、安心”を基本に、地域密着型サービスとしての理念を持ち、全職員が周知している。また会議等で具体的なケアに置き換え、職員の共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの周りには農道がおおく、散歩の時ドッグサロンの利用もして店の方々と犬を通して会話できたり、畑の仕事の方々と話したり、町内の祭りにも参加しています。	近隣に農家が点在する中、地域との交流に積極的に取り組んでいる。時折農家から野菜が届けられたり、散歩途中にも多くの人から声を掛けられるようになった。ホームからは、町内の祭り等に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの畑で収穫した野菜を利用者の方と近所におすそ分けしたり近所の方々からも頂いたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の散歩時には、元気でね。がんばれ。などと声を掛けてもらうことが多くなりました。 水溜りの修理もお願いしており、近々行ってもらえます。	会議は、2ヶ月に一度開催している。事業報告やホームの現況、評価の報告等その時々合った情報の提供をしている。委員からは活発な意見が出され、その意見や提言は全職員に報告すると共に運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご家族のおられない利用者様の後見人の話を積極的にしてもらいました。 生活保護の方の生活も見てくださいしています。	運営推進会議において、市の担当者や情報交換している。最近では利用者の後見人制度のことや生活保護者の面会で、市の担当者と頻りに相談しており、毎回意見交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関のカギは夜間のみ掛けている。 職員の見守りで庭に出て日光浴をされています。 花壇の草をとったり、花を摘んで部屋に飾っています。	代表者、管理者、ケアマネージャ及び職員参加の会議の度に、それぞれが振り返り、身体拘束をしないケアを確認し合っている。また日中玄関の鍵はかけておらず、鈴をつけるなどの工夫により、見守り対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修を受け、職員全員で勉強会をしている。 事故、ケガが発生した場合は、すぐ家族に連絡し説明しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受けました。 ホームには、後見人を1名つけました。 きずなの会にも1名入ってもらっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、十分な説明と見学をしてもらっています。 入院された後退所はありますが、入院中は、毎回面会をし身の回りの世話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族、利用者、ケアマネージャ、管理者で意見を交わし必要ならば医師も交えて話し合い、運営に反映させている。	利用者ごとに個人ノートを作って、利用者とのやりとりや様子を記入し、家族に知ってもらい、家族の思いや意見をもらっている。面会の少ない家族には1ヶ月に1回以上、電話等で連絡を取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1～2回ケアマネージャを交えたミーティングを行い意見の交換をして勉強会を行っている。	月に1回～2回、管理者、ケアマネージャを交えて会議を開催しており、日々の反省や今後の方針など話し合い、出された意見を運営に反映させている。また、勉強会など、職員から意見の出やすい環境も整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者、職員個々は、勤務状況を十分把握して各自が向上心を持って働いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修は、できるかぎり全職員が受けるよう努力している。 研修後は、研修内容を職員の勉強会で発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、研修を通して行い、良いことはホームでも取り入れるようにしている。 他ホームの見学も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される前に家や病院へケアマネージャと共に訪問し本人に面談し、思いを伺っている。 又、家族の方とも、十分話し合っ、生活状況を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所する前に、家族に面談し、要望を把握している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や居宅のケアマネージャ、ホームのケアマネージャ、主任など関係者で集まり、必要なサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は親に相談するように接したり、昔の人の知恵を教えてもらったりしている。 楽しく明るく良い関係を保って暮らして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と利用者本人の間に立って時々旅行に連れて行っていただいたり、外食や自宅へ連れて行ってもらったりしている。 月一度の生活便りでホームの生活をしてもらう。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人にとって馴染みの人や場所は経営者が、外出援助をしている。 家族と行かれることもある。	職員は、利用者が友人と面会することや思い出の場所を訪れることが大切であると認識しており、希望があれば、出来るだけかなえている。また家族にも、大切な人に会わせたり、なじみの場所に行くことを勧め協力を求めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士、性格、気の合う人たちが一緒に過ごせる様いすの用意をしたり、食事の場所を考えたり散歩を共に仲良くさせるように考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気によっては、やむなく退所される場合がありますが、時々、電話し、様子を聞いたり面会が許されれば面会に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望を夕のお茶会で聞いて、ミーティングの題として職員で話し合っただけ希望にそうすることができるようにしている。	夕のお茶の時間に話題を豊富にし、利用者の思いを引き出すようにしている。言葉の話せない利用者には、ゆっくりと話しかけ、目の動きやうなずきなどで本人の思いの把握をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、家族、本人から話を聞いて、ケアマネージャと相談し、サービスを考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の生活、自立度によって、その日の気分に合わせて一日のサービスを決めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の考え、意見を聞き、ケアマネージャ、職員がサービス内容を作成し、そのサービス内容に添った介護をしている。	どのように暮らしたいか、利用者の思いを聞き、家族の意見も機会あるごとに尋ねている。カンファレンスでは、ケアマネージャを中心に3ヶ月ごとのアセスメントをもとに協議し、関係者と連携を図り介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、業務日誌、申し送りノートを見て、その日の状況を確実に知る伝える。を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	申し送りには、目を通してサインをする。利用者の一日の状態を職員同士伝達、必要があれば医師、家族との連絡を取り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	田畑の中にあるホームの為、のんびり散歩もできる。利用者様の愛犬が散歩道のドッグサロンを利用されているので、ドッグサロンの方との交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、御家族の希望を大切にして医療所は選んでいる。 入院医療所も連絡出来る様になっている。	入居前からのかかりつけ医を希望している利用者が2名おり、通院には職員が同行し、往診もお願いしている。他は協力医がかかりつけ医となっており、月に2回往診がある。いずれも医師とは連携が取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の中に准看護師がいるので聞いたり医師との連携をとって指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、御家族の了解をとって、医師、看護師の方から個人情報も聞くことが出来る様にして、毎日、又は、1日毎に面会し世話をしたり病状を聞くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケア研修も受けました。 ターミナルケアをされたホームの発表も聞いてきましたが、今のところホームではしなないです。 入院されて終末期を迎えられる方針になっている。	ホームとして看取りは行わない方針をたてており、契約時に本人、家族に同意を得ている。しかし医療行為が必要となり医療機関に入院となっても、見舞いに行ったりヘルパーとして関わるなど、手厚い支援を続けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の研修は職員全員が年数回受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は、年数回受けている。通報訓練も全職員が受けて、対応も職員にそれぞれ決めて、訓練している。	避難訓練では利用者の救出、消火、けが人の処置など、場面を設定して行っている。最近の訓練には民生委員の参加があり、災害時の地域の協力体制を築く足がかりとして期待し、連携を図っていく心づもりである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の性格や身体状況に合わせた対応が全職員が出来るよう心掛けています。	職員は利用者寄り添いながら、人格を尊重した対応で接している。またケアの現場において、利用者を傷つける対応をしていないか職員が互いに確認し合い、ケアマネージャーも気づきを伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散髪は、利用者の好みに応じ、職員が行っている。 食事好みも聞いて献立を考えている。 散歩も時には希望者で行くこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者の気分も考えて利用者のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に応じた散髪をしている。 洋服も季節に合うよう、考えてあげたりアドバイスすることもある。 好みの衣服を季節ごと家族と家にとりに行かれる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	花見の時は弁当を作り、外で食べます。 食事の片付けをしたり、テーブルも拭いてくださっている。春、秋のおひがんには、おはぎを利用者と作ります。	ホーム敷地内の畑で利用者が野菜を作っており、毎食採れたて野菜が食卓にあがってくる。また食事の準備には利用者の出番も多く、特に入居前には台所に立ったことがない男性が、エプロン姿で活躍している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取は毎日記録して、一人一人の摂取を確認します。 塩分の摂取も利用者によって注意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの研修は全職員が受け指導しています。 口腔ケア用のティッシュペーパーも使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを職員が把握して、声掛けをしトイレ誘導をして、オムツは夜間のみとしている。オムツに目標を持っている。昼、夜オムツの利用者が職員の声掛けで昼夜はずし、布パンツになった方も1名いる。	現在昼間は全員がパンツである。排泄チェック表で排泄パターンや習慣を把握し、利用者それぞれに合わせた排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食の献立に、果物、繊維質の野菜を含む料理を入れている。 おやつには手作りの寒天類を食べてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、夏は希望者は浴に入る前にシャワーを使っている。 入浴できない方は清拭をしている。希望者はわくわくの湯に行く事もある。	週2回の入浴としているが、それ以外でも希望があれば受け入れている。入浴を拒む利用者には、気分を変え少し時間を置いて再度声かけするなど、臨機応変に対応している。 夏場には、別にシャワー浴もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	21時消灯となっているが部屋でのテレビはイヤホン使用で見られることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援は症状の変化に応じ医師の指示で投与している。 副作用、用法、用量については往診ノート、申し送りノートに記入、職員に伝える。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝、掃除される利用者がおられる。 新聞を毎朝取って来られます。 編み物をしたり、絵を描いたりされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は毎日、散歩、外気浴をされます。近所のお菓子屋へ買物に行きます。 ご家族と近くのパン屋さんへお茶しにいかれる。家族と外食されました。利用者の希望でお墓参りに行きました。全員でドライブできる車があるといいです。	ホーム敷地内にある畑の手入れや、花壇のある広場での外気浴、天気の良い日には周辺を散歩している。また買い物、墓参り、喫茶店やスーパー銭湯へのお出かけなど、本人の希望に沿い個別に対応している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	愛犬のえさをかうために1名の利用者は、お金を持っておられ、外出し自分で買われている。 きずなの会に入っておられ支援されている。 職員も紛失されないよう注意している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば使用してもらっている。 手紙も希望があれば便箋、ハガキを用意して渡します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に写真、新聞が飾ってある。壁に利用者作成のアートも飾ってあります。玄関には時なく咲く鉢植がある。今年は色々のドライフラワーをアートしました。木の葉がうまくつかなかく苦労されていました。	ホーム行事として利用者全員で一年に一作品作ることを掲げており、季節感のあるタペストリーが居間兼食堂の壁に掛けられている。またソファが何か所かに置かれてあり、それぞれに横になったり利用者同士話し込んだりと、寛げる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士、それぞれの部屋に行って語り合ったりテレビを見たりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の好むものをおいておられる。 犬の写真も飾ってある。	入居前に、自分の家のように居室を使って欲しいと本人、家族に伝えている。入居後も本人や家族と相談しながら持ち込む物をそろえたり、カーテン等も希望があれば変えるなど、本人が安心できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を考えて、トイレ、風呂、玄関に手すりがあり、自分で排泄、入浴が出来るよう工夫されている。		